

NGO外国人救援ネット・ニュース, No.6

NGO外国人救援ネット, 1998.10.5

請求記号:震災-6-z33. - 12p

* 震災関連記事のみテキスト化しています

巻頭言

金 宣吉（神戸定住外国人支援センター）

近頃巷では、NPO（非営利組織）の活動が大変な流行でどこにいても話題になっていますが、どうも頭の回転が遅い私には理解が難しく一体どんな活動がNPOにあたるのか、自分でNPOの重要性など云々かんぬん話しておきながら、はたと胸に手をあてて考えるとわからなくなることがあります。

地球規模で消費が美德とされ、営利活動と規制・管理する国民国家が人の活動の中心とされた時代の矛盾が大きくなって、リサイクルやボーダーレスの時代にあった人の活動が注目されるという大きな流れはわかるのですが、ボランティア＝「奉仕活動」と考えられがちな日本社会の中で「非営利」の活動というのはどういうふうに理解されていくのか正直いって良くわからないのです。

「ボランティア」や「非営利」という言葉が非常に持ち上げられて、社会の問題が大きく取り上げられていくと、カルト的な新興宗教などの予備軍を多くつくりだすだけの結果になるのかもしれませんが。

NPOという団体を一応やっている身としては、やはり今までの行政や企業のやってきたことを総括して、問題については、責任のあるところに解決の努力を促し、安易な「ボランティア」にはならない姿勢が必要だと思います。

今回、外国人救援ネットとして、県の指針にカウンターレポートを出しましたが、今後中味のあるものにするためには、無償ではたらくヘルパーさんではないより効率的な外国人住民施策をつくっていける外国人問題に取り組むプロパーな民間の活動の活性化が必要だと思います。

不況の中、外国人住民の生活が苦しくなるだけではなくマジョリティー（多数者）の意識も少数者に厳しくなるかもしれません。

すこし流行のNPO活動を斜めに見ながら救援ネットの活動に参加したいと思うこのごろです。
